放射能泉の保健物理学的考察

富山医科薬科大学医学部放射線医学教室　柿下正雄

三朝及び奥飛騨温泉群における ^{226}Ra 及び ^{222}Rn の測定値より人体におよぼす影響につき考察をおこなった。

入浴による体外被爆は多いが，その主体が α 線のため，その飛程より人体に影響がないものと考えられる。又，γ 線についてもほとんど傷害はないものと考えられる。

飲泉については内部被爆が問題となるが，三朝の放射能泉を毎日コップ一杯ずつ50年間飲んでも最大許容身体負荷量の0.1μCi には達しない。

浴室内及び泉源附近の ^{222}Rn の量より肺の年間吸収線量を算出したが，奥飛騨温泉では許容線量を超えないが，放射能泉の場合にはもっと多いと考えられる。

（31巻２号に論文として掲載済み）